



現場レポート その1

チャレンジ！防災教室@鳥海中学校

県では、自然災害から県民の生命財産を守り、安全安心な県土づくりを推進するため地域、学校、市町村、NPO、企業など県民の皆様の御協力をいただきながら、様々な事業を実施しています。

台風や大雨洪水など自然災害の発生が多い時期を向え、身近な安全安心対策を一層進めるために、7月20日、一戸町立鳥海中学校（全校生徒35名）を会場に、地域の防災教室を行いました。

1 今回の特色

これまでも、地域住民を対象として防災教室を実施してきましたが、今回の主役は、地域の将来を担う子供たち。まず第1に、自分たちの住んでいる地域の現状をよく知ってもらうこと、そして、子供たちが、自分が見聞きし感じたことを、自分の家族に伝えてもらいたいという期待も込められています。

今回の講義には、国際航業㈱の方に講師をお願いし、まさに、地域、学校、企業、市町村、県の協働による教室開催となりました。

2 教室の様子

校長先生の次の言葉でスタート

「災害は他人事じゃない！」「チャレンジと！とは、自分たちの地域を知ること！」

自然災害について 国際航業㈱ 手束砂防情報担当部長

自身が被災者となった阪神・淡路大震災や台風被害の調査など仕事を通じた体験談を語り、子供たちに災害に対する日頃からの心構えを伝授。

地域の防災マップづくりに挑戦

全校生徒を7つのグループに分けて、振興局職員などがリーダーを務めながら「手づくり防災マップ」を作成。地図や航空写真に、学校・自分に関係のある家屋・ひとり暮らし老人が住む家屋・河川・道路・避難場所・土地が低く雨水がたまりやすい場所など、自分たちで色塗りをしながら確認しました。



色を塗りながら危険箇所を確認中

子供たちの声

それぞれの作った防災マップを見せ合いながら、防災上注意しなければならない点など感想を発表してもらいました。

- ・学校の後ろに危険渓流が存在すること自体に驚いた。
- ・自分の家が川に近いので気をつけたい。
- ・危険箇所に多くの家がある事に驚いた。
- ・自分の家も危険箇所になっているので、今度雨が降ったら気にしてみたい。
- ・高齢者に手を貸したいと思った。
- ・地図を使って危険の度合いを知る事が出来る事が判った。
- ・避難場所については、公民館よりは、小学校のほうが良いのではないか。
- ・自分たちの身の回りの危険が判りました。
- ・今日教えて頂いた事を、家に持ち帰りたいと思います。
- ・手束先生の実体験を交えた説明が大変判りやすかったです。



みんなの注目を浴びて成果発表。

中学生らしい率直な意見が出されました。



国際航業(株) 手束さんから子供たちへのメッセージ

今日習った事を、皆に伝えてください。伝える事で「他の人の命を救う事が出来る力」になります。

問い合わせ先
二戸地方振興局土木部
Tel.0195-23-9209